様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２４９９

研究課題名（和文）アメリカ文学における核と原爆の言説--人種とエスニシティと環境のポリティクス

研究課題名（英文）Atomic Bomb and Nuclear Discourse in American Literature: Politics of Race, Ethnicity, and Environment

研究代表者
松永　京子（Matsunaga, Kyoko）

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：５０６１２５２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、多様な人種的・文化的背景をもつアメリカ作家による核と原爆の言説に注目し、エスニック・ポリティクスや社会運動の関係から検証することで、アメリカ〈核文学〉の枠組みをより幅広く多角的な文学的枠組みへと再構築することを試みた。具体的には（１）アメリカ南西部、北西部、カナダ北西準州における先住民文学を核開発の歴史や植民地主義との関連から調査・分析、（２）アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象を公民権運動と反核運動との関係から検証、（３）日系被爆者表象や日系文学における核汚染のテーマをトランスパフィックな環境的視座から考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究成果の学術的・社会的意義は、従来のアメリカ核文学研究では注目されてこなかった環境、人種、エスニシティといったテーマに斬り込むことで、より幅広く多角的な〈核文学〉研究の体系化に貢献したことである。また、これまで単独で研究されることの多かった北米先住民文学、アフリカ系アメリカ文学、北米日系文学における核の言説を総体的に捉える試みは、これまであまり交わることのなかった〈核文学〉研究と〈エスニック・マイノリティ〉研究の領域横断的な対話の可能性を示したという点においても大きな意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this research, I attempted to deconstruct the conventional literary framework of “Nuclear Literature” in North America by privileging more diverse and multifaceted voices. To do so, I explored nuclear discourse by writers from various cultural backgrounds, focusing on ethnic politics and social movements. Specifically, I researched and examined (1) indigenous literatures in the American Southwest, Northwest, and Northwest Territories of Canada in relation to nuclear development and settler-colonialism, (2) African American literature and its connection to the Civil Rights and Anti-Nuclear movements, (3) and representations of Japanese American/Canadian hibakusha and nuclear contamination from a transpacific ecocritical perspective.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：原爆文学　核文学　先住民文学　アフリカ系アメリカ文学　カナダ先住民　エコクリティシズム　植民地主義　核・原爆表象

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

アメリカにおける核文学研究は、『ダイアクリティックス』誌に掲載された「核批評」（1984）を皮切りに、1980 年代以降、著しい発展を示してきた。80 年代後半から90 年代前半にかけて、ポール・ブライアンの『ニュークリア・ホロコースト—小説における原子戦争』（1987）　やハンス・G・グラッツァー／ラリー・M・ブラウニングの『原子爆弾—解題書目』（1992）によって、1945年以降の核・原爆関連作品を体系的にまとめる作業が行われた。また、90 年代後半以降は、ジョン・ゲリー『核による全滅と現代アメリカ詩』（1996）、H・ブルース・フランクリン『最終兵器の夢—「平和のための戦争」とアメリカSF の想像力』（2008）、ダニエル・コードル『ステイト・オヴ・サスペンス—核時代、ポストモダニズム、アメリカ小説と散文』（2010）など、核をテーマとした作品分析や核時代における文学の意義や役割に主眼を置いた研究が発表されている。これらの先行研究は、小説、詩、随筆、映像といった多様なジャンルを網羅しており、アメリカ核文学を包括的に捉える重要な研究といえる。しかし、これらの研究では（１）「核による全滅」を前提に、「核の不安」や「アポカリプス」といった限定的なテーマに集中している（２）ウラン鉱山、核実験、核廃棄物をめぐる環境問題や植民地主義的視点が欠如している（３）人種・エスニシティをめぐる地理的配置や地政学的観点が考慮されていない、といった問題点が残されてきた。

研究代表者は、既存の核文学研究のこうした問題点に焦点を当て、北米先住民らの文学作品をポストコロニアル理論やエコクリティシズムの観点から解読し、先住民作家による核のナラティヴを体系的に研究してきた。本研究はこの延長線上にあると同時に、アメリカ核文学をより幅広く多角的な文学領域へと発展させようとする試みである。

２．研究の目的

本研究の目的は、多様な人種的・文化的背景をもつアメリカ作家の作品における核と原爆の表象に注目し、エスニック・ポリティクスや社会運動との関係から検証することで、アメリカ「核文学」の枠組みをより幅広く多角的な文学的枠組みへと再構築することにある。具体的には、（１）アメリカ南西部、北西部、カナダ北西準州における先住民文学を核開発の歴史や植民地主義との関連から調査・分析、（２）アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象を公民権運動と反核運動との関係から検証、（３）日系被爆者表象や日系文学における核汚染のテーマをトランスパフィックな環境的視座から考察することで、既存の〈核文学〉研究において見過ごされてきたテーマや領域を明らかにすることである。

３．研究の方法

本研究では、研究内容を主に以下の３つのカテゴリーに分類し、関連する地域の現地調査や資料調査に基づいて、文学・映像作品の分析をおこなった。

（１）　核開発の歴史と北米先住民文学

2016年度は、ハンフォードの影響を受けた先住民の「声」が文学作品にどのように反映されているのか考察するため、ハンフォードやミッドナイト鉱山の歴史に関する文献・資料を収集・調査し、デボラ・グレガーやテリ・ハインなどアメリカ北西部出身の作家による文学作品

を分析した。また、レスリー・マーモン・シルコウの『死者の暦』におけるグローバルな先住民アクティヴィズムのあり方を検証するために、アメリカ南西部における核開発とアフリカの先住民による反核運動との関連について調査をおこなった。

2017 年度は、在外研究のためブリティッシュ・コロンビア大学に在籍し、カナダ先住民文学とウラン鉱山の関係についての調査をおこない、カナダ北西準州の先住民族サーツ・デネの土地に開かれたウラン鉱山の問題がリチャード・ヴァン・キャンプやマリー・クレメンツ等のカナダ先住民作家の作品のなかでどのように描かれているのかを検証した。ブリティッシュ・コロンビア大学在籍中は、バンクーバーに居住する先住民族モスキアムの会合に参加し、北米先住民と環境の関係についての知識を深めた。さらに 2017 年 8 月には、ミネソタ州フォンデュラック居留地出身のアニシナベ作家ジム・ノースロップ作品に描かれているプレアリー・アイランド・インディアン・コミュニティと原発の関係を検証するために、Fond du Lac Reservation Center & Museum やプレーリー・アイランドで調査をおこなった。

2018年度は、カナダにおける核開発の歴史と文化表象の関係を調査するため、バンクーバー美術館で開催されたPanel Conversation: Atomic Studies and Nuclear Futures に参加し、講演者らとの交流を通じてカナダの核の歴史や文化表象の理解を深めた。また、前年度同様、カナダ北西準州のウラン鉱山ポートラジウムが先住民サーツ・デネに与えた影響を調査するため、ブリティッシュ・コロンビア大学のファーストネーション図書館で資料調査・収集をおこない、ドキュメンタリー映画、グラフィック・ノヴェル、戯曲におけるトランスパシフィックな核のナラティヴの可能性と限界について考察した。

2019年度は、2017年8月におこなったミネソタ州のプレアリー・アイランド原発とプレアリー・アイランド・インディアン・コミュニティの調査に基づき、ジム・ノースロップの新聞コラムにおける反核ナラティヴを検証した。さらに、2019年8月には、多様な人種的・文化的背景をもつアメリカ作家による核と原爆の言説をアメリカ南西部の核開発の歴史との関係から検証するため、ニューメキシコ州の Los Alamos History Museum、Bradbury Science Museum、National Museum of Nuclear Science and History等で調査をおこない、ミュージアムにおける核・原爆表象、アメリカ南西部作家による核をめぐるナラティヴを分析した。

（２）アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象と社会運動

2016年度は、アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象を社会運動との関係から検証するため、ラングストン・ヒューズが50、60年代に発表した作品に関する文献、公民権運動と反核運動の関連が示された資料を調査・収集した。特に、1945年から1960年代にかけて『シカゴ・ディフェンダー』誌に掲載されたヒューズのコラム「シンプルの物語」に注目し、ヒューズの反核思想が冷戦時代のマッカーシズムによってどのような影響を受けてきたのかを明らかにした。

（３）日系被爆者表象と日系文学における核汚染のテーマ

2016年度は、原爆・核に言及した日系アメリカ文学や日系カナダ文学をトランスパシフィックな環境的視座から検証するため、日系被爆者に関する文献・資料を収集・調査した。また、この調査に基づき、日系カナダ人作家ジョイ・コガワの『オバサン』に描かれる日系被爆者の「不在」に着眼し、1970年代の先住民運動と日系被爆者運動との関連から読み解いた。

在外研究中の2017年度は、日系カナダ人被爆者の多様なバックグランドや状況を理解するために、バンクーバーに在住する日系被爆者と会合し、インタヴューをおこなった。

2018年度は前年度に引き続き、日系カナダ文学における原爆・核表象をより深く理解するため、バンクーバーに在住する日系カナダ人被爆者と会合し、インタヴューをおこなった。また、バンクーバーにおける日系カナダ史を調査するため、リッチモンドの Steveston Village でフィールドワークをおこなった。

2019年度は、2018年にバンクーバー美術館で開催された二つの展示会（「タコが己の足を食う」展と「BOMBHEAD」展）の核表象を調査し、太平洋を巡るカナダのウランのナラティヴを文化的・歴史的視座から考察した。

研究期間中は、幅広い知識と多角的視点を得るため、上記３つの分類に当てはまらない地域調査、資料調査、ワークショップ等の参加もおこなった。2017 年度は、原爆と植民地主義の関係についての知識を深めるために、韓国で開催された国際ワークショップ「東アジアから原爆文学を読みなおす」に参加し、ハプチョンにある韓国人原爆被害者資料館を訪問した。また、2018 年度には、セントルイスの核廃棄物をテーマとしたドキュメンタリー映画を環境正義とアクティヴィズムの視点から分析するために、セントルイス在住の映画監督と会合し、インタヴューをおこなった。2019 年 1 月には、シカゴで開催された Modern Language Association 学会に参加し、1984 年の〈核批評〉を見直すためのパネル〈新・核批評〉に登壇した。

４．研究成果

（１）核開発の歴史と北米先住民文学

アメリカ南西部における核開発、先住民アクティヴィズム、アフリカの先住民反核運動の調査に基づいたレスリー・マーモン・シルコウの『死者の暦』の分析は、SES-J/MESA合同大会シンポアムで発表した後、論文「L.M. シルコーの*Almanac of the Dea*d における汎部族的ニュークリア・アクティヴィズム」（『エコクリティシズム・レヴュー』10号）として発表した。また、デボラ・グレガーやテリ・ハインなどアメリカ北西部出身の作家による先住民表象の分析は、ASLE-J学会で発表し、後に著書『北米先住民作家と〈核文学〉』（2019）の一部として公開している。

リチャード・ヴァン・キャンプやマリー・クレメンツ等カナダ先住民作家の作品に描かれるウラン鉱山と植民地主義の検証は、2019 年 8 月に開催されたエコクリティシズム研究学会のシンポジアム「カナダ文学と環境 土地と資源を巡って」で発表した後、『エコクリティシズム・レヴュー』（13 号）に論文「海をわたるウランの物語—『寡婦の村』とカナダ先住民文学」として掲載した。

ミネソタ州のプレアリー・アイランド原発とプレアリー・アイランド・インディアン・コミュニティの調査に基づいたジム・ノースロップの新聞コラムにおける反核ナラティヴの検証結果は、Western Literature Association 学会で発表した。

本研究成果は他にも、バンクーバー美術館が主催した Atomic Study Series、モスキアムの保留地で開催された会合、St. John's College（ブリティッシュ・コロンビア大学）で開催された Resident Fellows Speaker Series において、講演という形で発表している。

（２） アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象と社会運動

1945 年から 1960 年代にかけて『シカゴ・ディフェンダー』誌に掲載されたラングストン・ヒューズのコラム「シンプルの物語」を、ヒューズの反核思想の視点から分析した結果は、論文「ラングストン・ヒューズの反核思想―冷戦時代を生き抜くシンプルの物語」として共編著『エコクリティシズムの波を超えて―人新世の地球を生きる』（2017）に掲載した。アフリカ系アメリカ作家による核・原爆表象と社会運動については、著書『北米先住民作家と〈核文学〉』（2019）の一部としても公開している。

（３）日系被爆者表象と日系文学における核汚染のテーマ

日系カナダ人作家ジョイ・コガワの『オバサン』に描かれる日系被爆者の「不在」、1970年代の日系被爆者運動、そして先住民表象の関連を検証した論文「原爆をめぐる沈黙の言葉―『オバサン』における1972年の〈謎〉と北米先住民表象」は、共著『言葉という謎―英米文学・文化のアポリア』（2017年）に掲載した。日系被爆者表象と日系文学における核汚染のテーマについては、著書『北米先住民作家と〈核文学〉』（2019）の一部としても公開している。

（４）その他

セントルイスの核廃棄物をテーマとしたドキュメンタリー映画を環境正義とアクティヴィズムの視点から分析した結果は、口頭発表“Telling Stories of the Nuclear Midwest: Waste Sites, Environmental Justice, and Activism”として Western Literature Association 学会で公表した。

2018 年にバンクーバー美術館で開催された展示会の核表象研究の結果は、中四国アメリカ学会で発表したあと、論文「『ゴジラ』から『オクトジラ』へ―循環するウランの物語の行方」として『中・四国アメリカ学会』（第 9 号）に掲載し、後に修正・加筆を加えたものを論文「オクトジラ、海を渡る―循環するウランの物語」として共編著『トランスパシフィック・エコクリティシズム―物語る海、響き合う言葉』（2019）に掲載した。

本研究結果の一部は他にも、日本英文学会特別シンポジアム（2019）や Modern Language Association 学会（2019）などで発表している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松永京子 | ４．巻<br>24 |
| ２．論文標題<br>「ボーダー」としての有刺鉄線表象――Silko, Kogawa, Kadohata の作品を中心に | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>AALA Journal | ６．最初と最後の頁<br>16-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松永京子 | ４．巻<br>9 |
| ２．論文標題<br>「ゴジラ」から「オクトジラ」へ―循環するウランの物語の行方 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>中・四国アメリカ研究 | ６．最初と最後の頁<br>23-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松永京子 | ４．巻<br>10 |
| ２．論文標題<br>L. M. シルコーの Almanac of the Dead における汎部族的ニュークリア・アクティヴィズム | ５．発行年<br>2017年 |
| ３．雑誌名<br>エコクリティシズム・レヴュー | ６．最初と最後の頁<br>25-34 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松永京子 | ４．巻<br>13 |
| ２．論文標題<br>海をわたるウランの物語--『寡婦の村』とカナダ先住民文学 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>エコクリティシズム・レヴュー | ６．最初と最後の頁<br>43-53 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Kyoko Matsunaga |
| 2．発表標題<br>Indigenous Nuclear Literature |
| 3．学会等名<br>Modern Language Association（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>松永京子 |
| 2．発表標題<br>「ゴジラ」から「オクトジラ」へ―移動するウランの言説の行方 |
| 3．学会等名<br>中・四国アメリカ学会年次大会 |
| 4．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Kyoko Matsunaga |
| 2．発表標題<br>Telling Stories of the Nuclear Midwest: Waste Sites, Environmental Justice, and Activism |
| 3．学会等名<br>Western Literature Association（国際学会） |
| 4．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>松永京子 |
| 2．発表標題<br>「ボーダー」としての有刺鉄線表象―Silko, Kadohata, Kogawaの作品を中心に |
| 3．学会等名<br>AALAフォーラム |
| 4．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kyoko Matsunaga |
| ２．発表標題<br>Jim Northrup and Nuclear Colonization in ‘what is now called Minnesota.’ |
| ３．学会等名<br>Western Literature Association（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>松永京子 |
| ２．発表標題<br>L.M. シルコーのAlmanac of the Dead における汎部族的ニュークリア・アクティヴィズム |
| ３．学会等名<br>SES-J/MESA 合同大会シンポジアム「クロスエスニックの文学とエコクリティシズム」 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>松永京子 |
| ２．発表標題<br>ハンフォードをめぐる汚染の言説と先住民表象 |
| ３．学会等名<br>第22回ASLE-J文学・環境学会全国大会シンポジウム「原発・原子力と文学」 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>松永京子 |
| ２．発表標題<br>〈核批評〉から〈新核批評〉へ |
| ３．学会等名<br>日本英文学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>松永京子 |
| ２．発表標題<br>海をわたるウランの物語--『寡婦の村』とカナダ先住民文学 |
| ３．学会等名<br>エコクリティシズム研究学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計5件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>松永京子 | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>英宝社 | ５．総ページ数<br>329 |
| ３．書名<br>北米先住民作家と〈核文学〉ー アポカリプスからサバイバンスへ | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Suga Keijiro, Wake Hisaaki, and Yuki Masami eds. | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>Lexington Books | ５．総ページ数<br>308 |
| ３．書名<br>Ecocriticism in Japan（担当箇所: Chapter3 “Radioactive Discourse and Atomic Bomb Texts: Ota Yoko, Sata Ineko, and Hayashi Kyoko”） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>御輿哲也、新野緑、吉川朗子編 | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>大阪教育図書 | ５．総ページ数<br>453 |
| ３．書名<br>言葉という謎―英米文学・文化のアポリア（担当箇所：「原爆をめぐる沈黙の言葉--『オバサン』における1972年の〈謎〉と北米先住民表象」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩田弘、松永京子他編 | ４．発行年<br>2017年 |
| ２．出版社<br>音羽書房鶴見書店 | ５．総ページ数<br>436 |
| ３．書名<br>エコクリティシズムの波を超えて―人新世の地球に生きる | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>伊藤詔子、一谷智子、松永京子編 | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>彩流社 | ５．総ページ数<br>359 |
| ３．書名<br>トランスパシフィック・エコクリティシズム--物語る海、響き合う言葉 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

招待講演: “The ‘Strange Dawn,’ Uranium Mines, and Resistance in the Work of Simon J. Ortiz.” Musqueam 101. March 14, 2018. Musqueam Administration Office, Vancouver.

招待講演: “(Post)Coloniality and Atomic Narratives.” Presented in collaboration with 221A. ATOMIC Study: Speaker Series by Vancouver Art Gallery. March 10, 2018. Pollyanna Library, Vancouver.

招待講演: “Nuclear Issues in Indigenous Literature.” Presented with Lee Wenju. Resident Fellows Speaker Series. Jan. 20, 2018. St. John’s College, University of British Columbia, Vancouver.

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|